教育モニター　様

「授業を理解する生徒の英語力」についてご意見をいただきありがとうございました。

新聞等でも報道されているとおり、日本の英語教育は大きな変革の時を迎えています。今後の中学校における英語の授業は、関ケ原中学校で行われていたように、日本全国いずれの学校も、「英語の授業は英語で行う」ことが基本とされるようになります。

このような状況の中、本県の中学校英語教員はよく努力をしていると考えています。文部科学省調査によりますと、本県の約２０％の英語教員は、おおむね英語を使って授業を行っています（全国平均は約１２％）。また、半分以上を英語で行っている教員を含めると、その割合は約７８％（全国平均は約６３％）です。関ケ原中学校の教員に限らず、英語を多く使って授業を行い、英語教育の目標である「英語を通じたコミュニケーション能力」を育てようと努める教員が全国的にみても多いといえます。

教育モニター様には、そのような授業を生徒が理解できるのかと御心配いただきました。生徒が理解できる授業を行うことは最も大切なことです。一方で、生徒の英語を聞く力は着実に高まってきていることも伝えさせていただきたいと存じます。文部科学省調査によりますと、中学校英語教員の約６５％が、小学校での英語教育が行われたことで以前の中学生と今の中学生には違いがみられると考えています。例えば、「英語の音声に慣れ親しんでいる」と思う教員が約９４％、「英語を聞く力が高まっている」と思う教員が約８２％です。このような生徒の変容は、本県においても同様にみられるものと考えています。

本県には、各地区で英語教育の拠点となる学校を設け、当該校の成果を他校に普及・啓発する取組を行っております。教育モニター様がお住まいの可茂地区の平成２８、２９年度の英語拠点校は美濃加茂市立東中学校です。当該校で先日行われた英語の授業は、関ケ原中学校同様ほぼ全て英語で行われ、生徒は意欲的に英語を使って活動に取り組んでいました。英語が苦手な生徒に対しては、教員がきめ細かな支援をされていました。おそらく、関ケ原中学校においても、一人一人に応じた指導・支援が継続的に行われていると思われます。

これからも、関ケ原中学校や美濃加茂市立東中学校のような学校の取組を他校に普及・啓発し、英語の授業が好きだと思う生徒を増やすとともに、生徒の英語力を一層高めることができるよう取り組んでまいります。今後ともご支援のほどお願い申し上げます。

平成２９年１２月５日

岐阜県教育委員会
学校支援課長　　北岡　龍也